

LUI「公募研究」成果報告書

研究課題（和文）：統語および音韻から見た削除現象の対照言語学的研究

研究課題（英文）：A contrastive analysis of elliptical constructions - their syntax and phonology.

申請者名・所属先：稲葉治朗・総合文化研究科言語情報科学専攻

海外招聘者：なし

1. 研究の目的

子供は、周囲の大人から与えられる母語の音声的インプットをもとに、自分の母語を獲得していく。そうした観点からすると、意味的には解釈されるが、音韻的には実現されない要素を含むいわゆる削除構文は、言語習得（母語獲得）の面からも興味深いテーマを提供する現象である。本研究では、そうした削除構文のうち、主にドイツ語と日本語における動詞空所化（gapping）構文をとりあげ、両言語に共通してみられる特徴と両言語間の違いについて、主に生成文法理論に基づいた原理的な説明を試みる。

2. 研究開始当初の背景

上記のような理由もあって削除構文は、言語学研究においては従来から注目され、個別言語における研究、および英語を中心とするヨーロッパ系言語間の比較研究はある程度なされてきた。一方で、ドイツ語と日本語を対照させたものは極めて少ない。ドイツ語には、同じゲルマン語族に属する英語などと共通点を持つのと同時に、日本語とも統語的な特徴を共有している面もあり、両言語の対照研究は、とりわけ人間言語の普遍性と多様性の解明を目指す生成文法的な観点からは、より精力的に進められるべきである。

3. 研究の方法

当該の現象に関して、主に英語を基とする一般的な先行研究、およびドイツ語や日本語に関する個別言語の先行研究を調査し、これまでの研究では解明されていない問題点を明らかにする。そのうえで、新たなデータに関しては必要に応じてドイツ語母語話者による容認性判断も調査しながら、新しい分析を提案する。

4. 研究成果

中心的なテーマとして、ドイツ語および日本語における動詞空所化構文を取り上げた。先行研究をもとに、両言語に共通する性質を確認したうえで、両言語間で違いの見られる現象に注目した。分析の結果、そうした違いは、両言語それぞれにおいて独立に観察される言語事実、とりわけ特定の範疇が有する支配の方向性および形態統語的特性により自然な説明が可能であることを示した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文]

- Inaba, Jiro (2020) “Some Notes on Ellipsis.” In: H. Tokizaki (ed.) *Phonological Externalization*. Vol. 5. Sapporo: Sapporo University: 119-136.

[学会発表]

- Inaba, Jiro (2020) „Ellipse im Deutschen: Ein erster Ansatz.“ 日本独文学会 語学ゼミナール・オンライン 2020
- 稲葉治朗 (2020) 「削除構文における独日対照研究」 広島独文学会第 101 回研究発表会 (オンライン)
- 稲葉治朗 (2021) 「ドイツ語から見た英語と日本語」 東京大学ヒューマニティーズセンター 第 31 回オープンセミナー (オンライン)
- 稲葉治朗 (2021) 「動詞空所化構文の対照研究 ; 消えた動詞を解釈する」 東京大学ヒューマニティーズセンター 第 43 回オープンセミナー (オンライン)